

タウト塾特別講座

テーマ【熱海温泉の歴史と観光・別荘、分譲地への発展】



1. 黎明期の「あたま」

- 熱海の温泉資源の成り立ち
 - ・熱海温泉郷、火山活動、温泉余土、高温泉
- 古代伊豆国と「あたま」
 - ・日本書紀、直見郷、朝見郷、阿（安）多美
- 温泉地の開湯：利用の始まり
 - ・続日本紀、土肥（湯河原）
- 伊豆山の温泉の開湯
 - ・走り湯、走湯権現、走湯山縁起、賢安法師
- 「あたま」郷の温泉について
 - ・曾我物語、安多美湯、万巻上人、
- 「本湯」と「大湯」と间歇泉
 - ・中巖円月、熱海七湯

2. 中世の「あたま」

走湯と熱海郷に広がる温泉場の形成

- 戦国時代の熱海
 - ・鎌倉公方足利氏、関東管領山内上杉、享徳の乱、足利正和、伊勢盛時（北条早雲）



○熱海市域の状況

- ・北条家所領役帳、伊豆山郷、熱海郷、多賀郷、網代村

○湯前神社の成立

- ・熱海郷湯河原村、湯宮（神社）

○今川氏の湯治

- ・駿府、小田原、今川氏親、氏輝、熱海道

○小田原合戦における熱海郷

- ・羽柴秀吉、根府川城、山中城、禁制、徳川家康

3. 近世の「あたま」

大湯をめぐる社会・空間・文化

○近世熱海村の基本構成

- ・幕府領、小田原藩、湯持

○大湯と湯戸

- ・湯持27軒、湯戸、湯株、御汲湯

○湯戸と七湯

- ・熱海七湯、清左衛門湯、本間游清、



4. 近代の「あたま」

温泉観光地としての開発と発展

- 明治・大正期における湯戸・湯株・大湯の変容
 - ・内務省、宮内省、保養地、観光温泉地、新興旅館、別荘所有者
- 近世湯戸の衰退と湯株の変化
 - ・今井半太夫家、渡辺彦左衛門家
- 新たな湯株所有者
 - ・浅野長勲、華族、噺瀛館、熱海御用邸
- 昭和初期における温泉源と分譲地の開発
 - ・大湯の停止、温泉場取締規則、市街地周縁部の分譲地開発、市街地の拡大
- 名別荘建築を訪ねて
(起雲閣・東山荘・旧日向別邸)

5. 戦後から現在

- 戦後から高度経済成長
- 昭和から平成
- 平成から令和

